小平市議会定例会　　代表質問通告書

質問件名　超高齢化社会の中で市民の暮らしの豊かさが実感できる小平に

市長の市政方針にも示されているとおり日本は世界でも例をみないスピードで高齢化が進み人口減少が始まっています。小平市の状況をみると、市の東部地域を中心に続く大型開発などにより 2015 年にピークを迎えるという推計は、少し後ろにずれ、人口減少は少し先送りになります。しかしながら人口構成としては着実に高齢者の割合が増加しており、昨年はついに２２％に達し小平市も超高齢社会に突入しました。右肩上がりの経済成長が望めない中、経済指標では計れない成熟社会における暮らしの豊かさを市民とともに考えるべきときがきています。わたくしたち会派では、将来を見据え持続可能な社会を展望し、人権・福祉・環境を中心にすえた施策への転換の必要を訴えてきました。超高齢社会に入った今、自治・分権の視点からの創意工夫で、都心とは違う小平の良さや特長を活かしたまちづくりをすすめる必要があると認識しています。人口減少社会、超高齢社会をマイナス思考ではなく前向きに捉え市政の舵取りを期待し以下質問します。

１　すでに生産人口年齢は減り初め税収の伸びが期待できない現状において本当に必要な施策は何かを議論するとともに持続可能な財政運営のあり方が問われています。市長がめざし描く超高齢社会での小平のまちの姿と今後の財政運営について伺います。

２　市長の市政方針の冒頭に述べられたとおり、活力あるまちづくりには若者や子育て世代が活き活き暮らし活躍できる施策の充実は欠かせません。それは保育施設の整備や保育サービスの拡充とともに、子どもの育つ環境への配慮やワーク・ライフバランスとのセットで行う必要があります。子育てしやすいまちの条件とは何か市長の見解を伺います。

３　格差が広がり、特に子どもの貧困問題が深刻化しています。これは女性の貧困と直結しています。なかなか見えにくい子どもの貧困の実態について、市長と教育長それぞれのご認識と縦割りを超えた総合的な対策について伺います。

４　これからの時代は、若者、子ども、高齢者や障がい者がまじって暮らすがキーワであり、行政の縦割りを超えての取り組みと市民の力、地域の力が必須です。施政方針で述べられた市政の主役は市民であるという市長の言葉を実行し参加と協働によるインクルーシブなまちの実現を期待します。市長の見解を伺います。

５　これからは、人とのつながりやコミュニティの再生・緑の保全など新たな価値観によるにぎわいの創出など新たな価値観でのまちづくりへの転換が必要と考えます。駅前整備も含め超高齢社会における小平の特徴を活かしたまちづくりについて見解を伺います。

６　今年は戦後７０年の節目の年です。地域から人権・平和へのとりくみをすすめることの重要性について市長と教育長からそれぞれのご認識を伺います。

上記のとおり、小平市議会会議規則第５７条第２項より通告します。

会派名　　生活者ネットワーク　　受付番号【　　】―（　　／　　）

代表質問議員氏名　　岩本博子　　整理番号（通し NO）……（　　）